

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業理念「地域(生活、家族)を創造し活性化する事業」をりねんとして、地域の方々と関わりを持つことを常に考え、地域密着型サービスとしての役割を果たすよう努めている。地域の行事にも積極的に出かけている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用職員の研修を行い、理念について理解を図っている。朝礼時や職員の勉強会などに理事長が理念の実践に向けての具体的な講義を行う。	○	理念に掲げられている「人生を全うするお手伝い」を職員が理解し、共有し、さらに深い介護をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議、地域住民の方をお招きしたお茶会、文化祭などで事業所の理念に基づく実践を伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接するデイサービスの利用者が面会に来たり、グループホームで開くお茶会に地域の方を招いたり、近所の店に買い物に行ったり散歩に出かけたときに、地域の方と気軽に接して関係作りに取り組んでいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、敬老会、保育園の行事に積極的に参加し、お寺の法座にも一緒にお参りしている。婦人会や高校生が草取りや窓拭きのボランティアとしてきていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の生活に配慮しながら、地域の方の見学を受け入れている。実習生の受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行っている。外部評価の結果に対して検討し、改善を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容について報告し、意見や助言を頂いている。また、医院から出た質問に対して次回報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外は、必要な時に電話連絡し相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症高齢者についての研修の折りに成年後見制度、地域権利擁護事業について学ぶ機会があり、研修報告書を職員に閲覧している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修に参加している。職員のミーティングでも常に話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内法人研修プロジェクトなどに参加し、日々研鑽に努めている。事業所外で開催される研修にも参加し、受講内容を職場に持ち帰り、共有するよう努めている。誰もが受講できる機会がある。研修報告を提出し回覧している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者の集まりで情報交換をするようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設内の職員で話し合う場を設け、一人で悩まない場作りがある。月2回、腰痛に効く3B体操に参加し、気分をリフレッシュしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自分自身の気づきのため、理事長が毎日理念方針について話している。気づきノートを記入し意欲につなげている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、利用者、家族の方がグループホームを見に来られ、サービス提供責任者と職員が話をして対応している。グループホーム全体を見て頂き、本人の状況を把握し、本人の気持ちを大切に聞かせてもらっている。	○ 安心して新しい生活に入れますよう十分話をお聞きしたいと思う。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と面接し、グループホームの様子を見て頂き、ご家族のお気持ちをしっかり聞かせてもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画先作成担当者が利用者や家族の望んでおられる支援を見極めるよう心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か本人と家族にグループホームを見に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、料理等、全ての家事を一緒に行いながら、お互い助け合い、教えあいながら、楽しく生活している。利用者は人生の先輩として尊敬し、たくさんの知恵を頂いている。	○	一方的な支援ではなく、一つの家族としての気持ちを持って理解したり、知恵を頂いたり、ともに支えあえる関係作りをしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報交換をみつに行い、生活体験してお互い支えあっていく関係を持っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係がうまくいっていない場合は、しっかり話を聞かせてもらっている。面会時、ご本人と家族の潤滑油になるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家へお連れしたり、お墓参りをした。、親戚友人が訪ねてこられるよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く過ごせるよう、職員が調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入居された方を訪ねて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを訴えられる方には、しっかり話を聞き本人の希望意向にそえるよう努めている。意思をうまく伝えられない方には、声をかけながらご本人の気持ちをくみ取り、その人らしい暮らしに努めている。	○	その人らしさで暮らしていけるよう、したいこと、好きなこと、週間などを尊重し、否定はせず、一緒に考え問いかけながら自己決定に結び付けたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に沿って、生活歴、生活環境などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を使って、本人の有する能力などを総合的に把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人には日頃の関わりの中で思いを聞き、ご家族、関係者からも意見を頂いている。スタッフとも話し合いを持ち、介護計画作成に反映させている。	○	職員の気づきやかぞく、関係者からの情報を収集し、計画へ反映させたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな課題に対して、職員と話し合い、ケアの見直しは行っているが、介護計画書の変更を怠っている。		状況が変わった時点で、担当者会議を開き、計画書を変更していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付きなど、個別記録に日々記入し、状況をみんなで共有し、介護計画にも反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入院の送迎など、状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の文化祭に作品を展示したり、民生委員や地区の人にボランティアとして協力を頂いている。お茶会や舞踊ボランティアとして地域の方に協力いただいた。	○	もっと地域に開かれたグループホームになるよう考えていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今まで解決困難な状況に遭遇しなかった。	○	今後、必要ならば、地域包括センターの協力をお願いしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得いただいているかかりつけ医となっている。受診付き添いは職員が行っており、受診経過を家族にお知らせしている。体調変化時、かかりつけ医へ連絡し、指示を頂いたり、往診していただいている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に受診し、相談して、てきせつな指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月の半分は非常勤の看護職員が勤務している。また、デイサービスの看護職員に相談したり、かかりつけ医の看護職員にも助言、対応してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談員の方と情報交換し、退院支援に向けて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの研究プロジェクトチームを組んで話し合いをしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	プロジェクト研修でも、ターミナルケアの研究チームを組んで話し合いをしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから入院された場合、認知症が進まないよう面会したり、話をしたり、利用者さんを連れていったりし、できるだけ多く関わっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部に個人名を出したり、個人の情報を漏らすことのないよう周知徹底している。	○	常に個人情報に対しての職員の自覚をたかめていく。プライバシーを尊重し、誘導の声掛けに注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	要望を聞いたり、自己で決めたり、納得できるよう話し合い支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出、散歩など利用者の思いに添えるよう配慮し対応している。ご本人のペースに合わせて自由に過ごしていただいている。	○	その人らしい暮らしができるよう支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの理髪店へ行き気って貰っている。身だしなみやおしゃれな気持ちを忘れないよう声掛けをし、気持ちよい生活が出来るように努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や季節の食材を使い利用者と職員と一緒に準備し、同じテーブルで食事を楽しんでいる。味付けや調理方法を聞いたりしながら、一緒に食事作りや片づけも行っている。	○	食事の楽しみと食事作りを通して生きがいを持っていただけるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の身体の状態に合わせ、一人ひとりが楽しめるよう支援している。	○	好きな飲み物を選んでいただき楽しくティータイムを取っていただけるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便、排尿の回数を記録している。便意、尿意のない利用者にはサインを把握し、チャンスを見計らってさりげなく誘導している。	○	羞恥心を配慮しながらトイレ誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲の良い方が一緒に入れるようにしている。 花の村温泉を楽しみにしておられ、利用していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。 体調に合わせて休憩を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりの生活歴から習字、畑仕事、調理、縫い物、お茶、お花、歌など力が発揮できるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している人は自分で買い物をし、自分で支払いをもらっている。	○	家族と相談しながら自分で払っていただけるようお金を渡すなどの工夫をしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、ドライブ、買い物、お寺参り、、自分の家などに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会での外出や、他の利用者や名所、四季の風物を見に出かけたり、個別にお鯉参りや自分のいえに行くなどの機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話をかける支援をしている。家族と話をすることで安心される。おたより送付時に、利用者をご自分で書かれた手紙を添えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の制限が無く、いつでも気軽に寄っていただけるような雰囲気作りを心掛けている。家族、知人などが都合の良い時間に訪ねてこられお茶をお出しし、ゆっくりしていただいている。デイサービス利用者との交流があり、気軽に行き来している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について研修などに参加している。精神不安定になっておられた場合も職員間で声を掛け合い、安全に所在の確認、見守り、寄り添うことで、拘束はしないケアをしている。	○	拘束はしないための支援を継続する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりその日の状態を観察し、職員間で連携しながら見守っている。外出されそうで在れば、納得されるまでついていくよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で「声を掛け合い、所在の確認を行っている。プライバシーを考慮しながら、目が行き届くように職員が1つの場所に集中しないよう心がけている。夜間は不眠の妨げにならないよう静かに所在の確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人で安全に使用、補完できる方には、自己管理(ハサミ、裁縫道具)されている。針やハサミなどは数を確認し、定位置に戻している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やヒヤリハットなど、記録に残し原因を追及し、予防対策に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットプロジェクトを事業所内で立ち上げており、事故防止に繋げていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や応急手当の講習は新人職員の指導もかねて受けているが職員によって差がある。緊急時の対応方法についてマニュアルを目に付くところに貼っている。	○	講習を受けた職員が指導をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、目の付くところに貼っている。年一回消防署立ち会いのもと訓練を行っている。避難経路の確認をしている。緊急連絡網を作成し、全職員へ渡している。	○	運営推進会議で議題にあげ、協力をお願いしたい旨を伝えた。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の可能性の高い利用者には安全への配慮の上で、本人の持つ身体能力を抑制せず生活していただいていることを近況報告の中でお知らせしている。	○	継続して身体、精神面の状況について近況をお伝えしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	勤務時間が遅い職員については、利用者の精神面や体調面についての情報を必ず伝えている。様子の変化に気付いた場合は、医師へ相談するなどの対応を心掛けている。また、バイタルチェック、食事量、水分、排泄チェック、体重測定を行っている。	○	水分量を把握する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬一覧表を作成し(薬の内容についての記載した用紙含む)用量、副作用、用法などを確認するのに役立てている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便の状況確認をしている。また、食事量の観察や食事内容(食物繊維など)水分摂取、体操などに気を付け便秘予防に努めている。	○	水分摂取しやすい工夫をしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内を清潔にするよう声掛けし、口腔ケアを実施している。必要な人には付き添ってブラッシング、うがい、入れ歯の消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量のチェックをしている。 定期的な水分補給を行っている。一ヶ月に一回体重測定を行っている。栄養士に一日の栄養バランスについて相談している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに従い、食前の手洗いを励行している。 グループホーム全職員の定期検診や検便を行っている。 インフルエンザの予防接種をしている。ノロウイルス対策として手すり、椅子など次亜塩素酸希釈液で拭いて予防している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアル(食品の購入、保存、取り扱い、下準備、調理、食事、残った食品、便所、料理従事者の衛生について)に従って食材の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は引き戸で開けやすく、入ってすぐ大きく明るい窓から緑の木々が見える。玄関には花や田舎の風景の絵を飾り明るい雰囲気になっている。玄関に椅子を設置しくつろげるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面の飾りや季節の花、鍋物、台所の音(刻みの音、ご飯の匂い)、柱時計、こたつ、扇風機、季節感や生活感を取り入れるように努めている。日当たりの良い場所への長椅子のいどは利用者の意向に合わせている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バリアフリーのたたみが敷いてあり、冬にはこたつが置かれ座ってみたり、横になったり、気の合う人同士で好きなように過ごされたり、長椅子が廊下やホールに置かれ明るい光に囲まれながら2～3人で世間話をされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた日用品を持ち込まれている。居室はご本人や御家族の希望された物を用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは窓の開放と換気扇を使用。便器、床の汚れを確認している。温度調節は、夏は28度、冬は22度に調整し、窓の換気などでも温度、湿度の調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には洗面台を設け、いつでも洗面したり手を洗えるようにしている。たたみに座ったり立ち上がる際、柱に設置された縦型の手すりを使うことで、職員の支え無しに立ち上がる事が出来る。調理シンクは利用者の使いやすい高さに合わせている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行事や一日の流れ等を掲示板に大きく解りやすく書き表し、安心されるよう利用者に読んで頂いている。そわそわし始めると便の訴えなど、一人ひとりの行動と訴えの関連を把握するよう努め、混乱や失敗を予測し対応している。失敗が生じた場合、職員同士で本人の自立を取り戻せるよう話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の草を取ったり、プランターに朝顔の種をまいて育てたり、外庭では畑で作物を育て、収穫する楽しみが出来るようにしている。	○	畑を広げ、いろいろな野菜が育てられるように支援したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○力を入れている点

共同生活の中で利用者が参加できることを一つでも多く見つけること。利用者が喜んでくださることを一つでも多く見つけること。一人ひとりを深く知るために、気付きノートを作成、記入し、その人に添ったケアに繋げること。

○アピールしたい点

毎日の仏参、毎日の温泉入浴など心身の安らぎの場を提供していること。

近くに保育所があり、園児との交流が日常見られる。